



自民党

とかメールはとかしきなおみの政治活動を報告しています。(討議資料)

前衆議院議員(吹田市・摂津市)

# とかしき なおみ

とかしきなおみ後援会事務所 〒564-0026 吹田市高浜町9-16 TEL.06-6319-1535 FAX.06-6319-1536



**ウ** クライナの戦火から、私たち日本人も事実から目をそらさず覚悟を決めて考えなくてはならない時期が来たように思います。そのポイントを3つに絞って書いてみました。

①「自分の国は自分で守る」。ウクライナ侵攻でわかったことは、狂気じみた相手国のリーダーから国を守るには、最後は「戦う」

選択肢しか残らないということです。「同盟があるからきっと他国が守ってくれるだろう」こんな甘えた考えは通用しません。「国を愛する」ということは「自分の国を命懸けで守る」ということです。日本を恫喝に屈しない国にするには、一刻も早く憲法改正を手掛け、自衛隊を明記し紛争国には軍事援助をしないという法律もこの機会に改正すべきだと考えます。

②「核」との付き合い方を決める。世界では日本とウクライナだけが「非核三原則」を取り入れていますが、これでは国を危うくするということが明確になりました。自民党では非核三原則の扱いについて、国民の命を守るために議論がはじまっています。野党の主張する『議論すら認めない』のは、民主主義の否定です。

## ウクライナ情勢から学ぶこと

さらに浮き彫りになったのは、エネルギー問題でした。地球規模で脱炭素社会を目指す昨今、核の平和利用ともいわれる「原発の再稼働」について正面から議論し決断すべき時が来ています。

③隣国の脅威に備える。

戦争を仕掛けたロシアに加え、中国と北朝鮮の脅威も抱える我が国は、戦後最も厳しい状況下にあると言っても過言ではありません。

さらに恐ろしいのはこの3国が表には見えない形でより一層強く連携していく可能性が高い点です。

我が国は今後どのようにして国民を守っていくのか、急ぎ沖縄や北海道など国境線に位置する地域から具体的なシミュレーションを行う必要があります。

人類は互いに協力しなければ存続することはできません。日本も地球も快適な場所にして、次の世代に残すことが今を生きる私たちに課せられた使命です。ウクライナで泣いている子供達や母親の姿を見てそう強く思いました。

